

ちんじゆふ □ 横須賀鎮守府

「鎮守府」の歴史は明治4年(1871年)、付近諸港の警備を統轄させるため海軍規則において設けられた海軍提督府に始まります。

明治9年(1876年)8月に「提督府」を「鎮守府」とし、日本の海面を東西に分け「東海鎮守府」を横浜に、「西海鎮守府」を長崎に置くことを決定しました。(結局、西海鎮守府は設置されませんでした)

明治17年(1884年)12月、東海鎮守府は造船所のある横須賀に移転が決まり、名称も「横須賀鎮守府」と改名されました。又、明治19年(1886年)「鎮守府官制」により、組織として参謀部・軍医部・建築部・造船部・兵器部・軍法会議及び監獄署などが置かれました。



初代 横須賀鎮守府

初代横須賀鎮守府庁舎の建設は、明治20年(1887年)に着工し、明治23年(1890年)4月に竣工しました。庁舎は煉瓦造2階建、左右対象を基調として両翼をもち、中央部には車寄せを配置し、軒上にペディメントを設け大きく菊花紋章をあしらった歴史主義建築でありました。

この庁舎は大正12年(1923年)の関東大震災で被災するまで使用されました。



2代目 横須賀鎮守府

現存する旧横須賀鎮守府庁舎は関東大震災後に再建築されたもので、現在は米海軍横須賀基地司令部として使用されています。

建物は、大正15年(1926年)3月～同年11月のわずか8ヶ月足らずと短い中、工期短縮に努力した馬淵組が見事に竣工させ大功績を残しました。

この二代目庁舎は、耐震・防火性から鉄骨造と鉄筋コンクリート造を合わせた構造(3階建)となっています。

中央部には車寄せがもうけられていますが、箱型をした建物となっており歴史主義建築であった初代庁舎とは対照的に近代的なデザインの建物となっています。

昭和20年(1945年)8月30日終戦にともない、横須賀鎮守府庁舎は同年9月2日に連合軍に引渡されました。

慶応元年(1865年)に横須賀製鉄所が起工されてから約80年、常に大日本帝国海軍の中核であり続けた横須賀鎮守府はここで幕を閉じることとなりました。(樋口委員)

□ 東日本最古の洋風建築物 旧ティボディエ邸

旧ティボディエ邸は、旧横須賀製鉄所の副首長として明治2年(1869年)から造船技術の監督にあたったフランス人技師のティボディエの官舎として明治2年頃に起工された平屋建ての洋風建築物です。官舎の建設は山を切り宅地造成を行うことから始められ、建物が完成したのは明治3年頃とされています。



旧ティボディエ邸 復原イラスト

その造りは世界文化遺産に登録されている、あの富岡製糸場と同じ、壁の構造が木柱の間に煉瓦を平積みする、いわゆる“木骨煉瓦造”です。また基礎部分は石で造られており、現在ではほとんど目にすることが出来ないブラフ積みと呼ばれるものでした。西洋の建築技術が主に用いられておりますが、部材の接合などは随所に日本の伝統的な技法も使われていました。



旧ティボディエ邸 復原模型
(建築支会横須賀支部製作)



木骨煉瓦造

これまで知られる、わが国に残る明治初期の洋風建築物で、この旧ティボディエ邸と建設年代が並ぶものとしては、薩摩藩の尚古集成館や長崎のグラバー邸及び大浦天守堂など数例があるのみで、東日本周辺においては最古のものでした。

旧ティボディエ邸は平成15年(2003年)に解体され、横須賀市教育委員会の所管で解体された部材などは現在、横須賀総合高校に保存されています。

この旧ティボディエ邸はわが国の貴重な文化財としての歴史的価値が高く、後世に伝え、保存・活用が計られるべき重要な建築物であるものと考えます。(加藤委員)



ブラフ積み基礎



ヴェルニー胸像

□ ヴェルニーと造船所ドッグ

横須賀製鉄所(造船所)を建設したヴェルニーに因んでJR横須賀駅からダイエー側に広がるヴェルニー公園。春と秋には色とりどりのバラが迎えてくれる。その一角にヴェルニー記念館がある。市民であれば一度は訪れた事があるだろう。私も以前入館した事があったが、今回、都市景観ニュースの編集委員になり、ヴェルニー関係の記事を纏める必要から、十月の末、この地を再び訪れてみた。



ヴェルニー記念館

入館して館内の展示物を見学していると、入口からフランス人が四人入ってきた。どうも日本に住んでいる一人のフランス人が観光でやってきた友人を連れてこの記念館を訪れたようだ。ヴェルニーは江戸末期、開国直後の日本の海軍力向上と言う要請から、日本に招聘された外国人技師の一人である。この海軍力整備と言う目的の為に、横須賀の地に「横須賀製鉄所」が建設された。

ヴェルニーは、横須賀製鉄所の所長として土地の測量、工場に設置する機械類の調達から施設運営スタッフの人選まで幅広く行い、造船所の立ち上げに大きな貢献を果たした。この横須賀製鉄所の誕生は、横須賀を近代工業都市に変えた事のみならず、群馬県富岡の官営製糸場の誕生や日本最初の洋式灯台である観音崎灯台等の各所の灯台建設に多大な貢献を果たしている。

記念館を見学した後、公園内にあるヴェルニーの胸像を写真に収め、折から軍港めぐりの船がダイエー傍の棧橋から多くのお客を載せて出港するのを眺めながら、米軍基地側にある現在も使用されているドッグをカメラに収めて帰路についた。(前原委員)



ヴェルニー公園から見たドッグ

information

決定!! 第5回よこすか都市景観協議会賞(景観づくり活動)

よこすか都市景観協議会では、私たちのまち「横須賀」の景観を良くするため「市民レベルの活動の意識啓発を図ること」を目的に協議会賞を実施しています。



後世に伝える浦賀の鎧絵普及活動

活動者:浦賀鎧絵の会



横須賀「海と船が見える坂道」発掘・マップ作成活動

活動者:吉田秀樹



広告景観推進協力員の活動

活動者:広告景観推進協力員



芦名 淡島神社の流し雛

活動者:淡島神社



第5回は
5団体の受賞
となりました!

授賞式を第20回都市景観フォーラムで行います



市立万代会館の文化祭活動

活動者:横須賀建築探偵団

第20回都市景観フォーラムを開催します!

- 開催日時:平成27年2月8日(日) 13:30~17:00(13時間開場)
- 開催場所:ヴェルクよこすか 6階ホール(横須賀市日の出町1-5) <入場無料>
- プログラム:メインテーマ 『よこすか近代遺産の発見~横須賀製鉄所が残したものの150年~』
 - ①授賞式 第5回 よこすか都市景観協議会賞
 - ②基調講演 「横須賀製鉄所から造船所へ」
山本 詔一さん / 郷土史家、横須賀市近代歴史遺産活用事業推進協議会会長
 - ③パネルディスカッション
コーディネーター:水沼 淑子さん / 関東学院大学教授
パネリスト :長島 靖夫さん / よこすか都市景観協議会初代会長
山本 詔一さん / 郷土史家
米山 淳一さん / 公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事
亀井 泰治さん / 横須賀市公共建築課課長補佐
菊地 勝広さん / 横須賀市自然・人文博物館学芸員

■平成26年度よこすか都市景観協議会会員 [順不同]

- 正会員 《10団体》(一社)神奈川県建築士会横須賀支部/(一社)神奈川県建築士事務所協会横須賀支部/ミーズ設計連合協同組合/(公社)神奈川県宅地建物取引業協会横須賀三浦支部/(公社)全日本不動産協会横須賀支部/横須賀建設業関連団体協議会/(一社)横須賀建設業協会/横須賀建工同志会協同組合/(一社)横須賀三浦建設協会/横須賀電気工事協同組合/横須賀管工事協同組合/横須賀緑化造園協同組合/横須賀三浦塗装工業協同組合/横須賀内装事業協同組合/測新会/横須賀商工会議所/(公社)横須賀青年会議所/東芝ライテック(株)/横須賀市
- オブザーバー会員 《3団体》神奈川県横須賀土木事務所/東京ガス(株)横浜支店/東京電力(株)藤沢支社



よこすか都市景観協議会
会長 増田 務

よこすか都市景観協議会会員募集中です!

連絡先:横須賀市 都市部 市街地整備景観課 電話046-822-8377

よこすか都市景観協議会

検索

クリック!

発行:よこすか景観ニュース・HP編集委員会

委員長:高原 健一 委員:加藤 雄治、樋口 和也、栗田 薫、前原 博幸、新倉 隆史、境 高宏